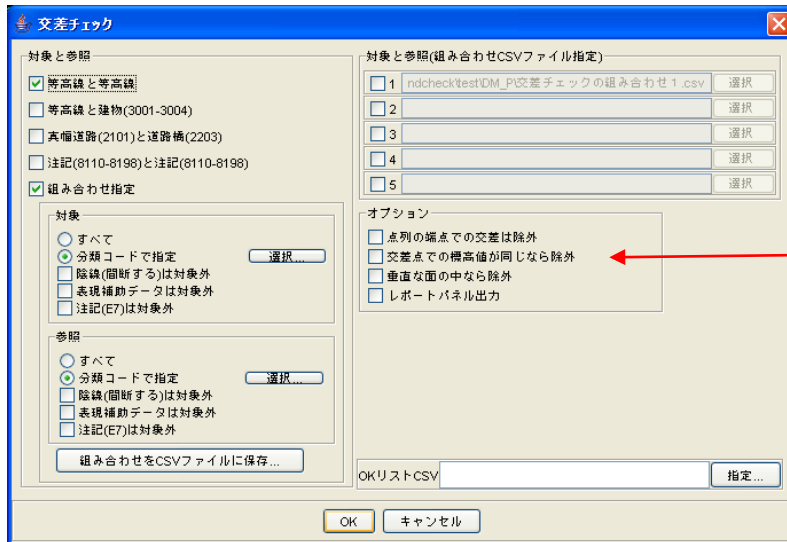
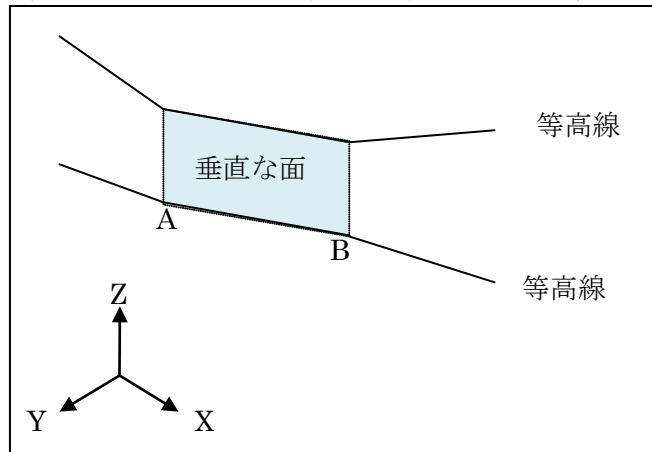


1. 交差チェック

[チェック]-[交差チェック]にオプション「垂直な面の中なら除外」を追加しました。垂直な法面などを通る等高線について、交差としてリストアップしていましたが、このオプションで除外できます。



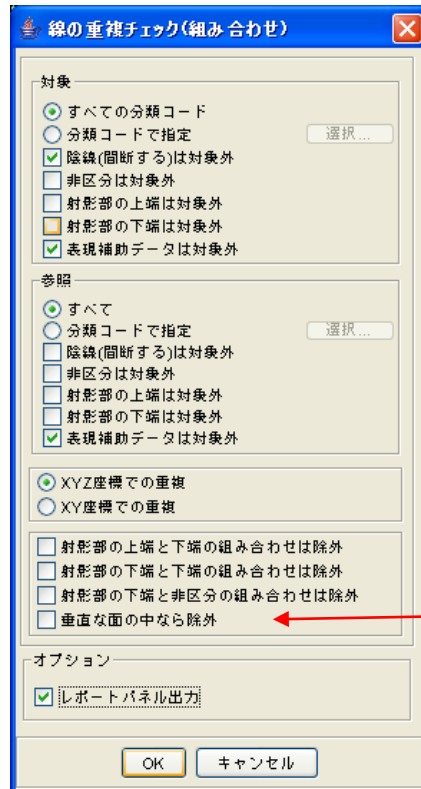
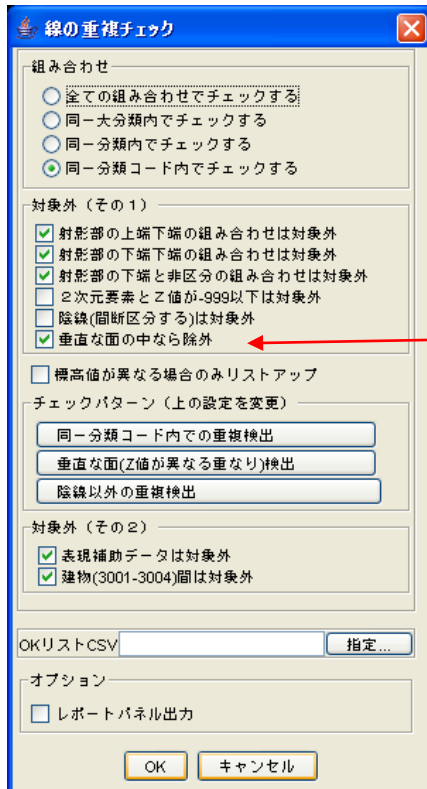
【垂直な面の中なら除外】 垂直な法面を通る等高線のように、XY 座標では重なり Z 値が異なる垂直な面にを想定し、交点はその面内にある場合、リストアップしません。下図で、XY 面では点 A と B で等高線は交差していますが、A と B は等高線がなす垂直な面に接しているの、リストアップしません。



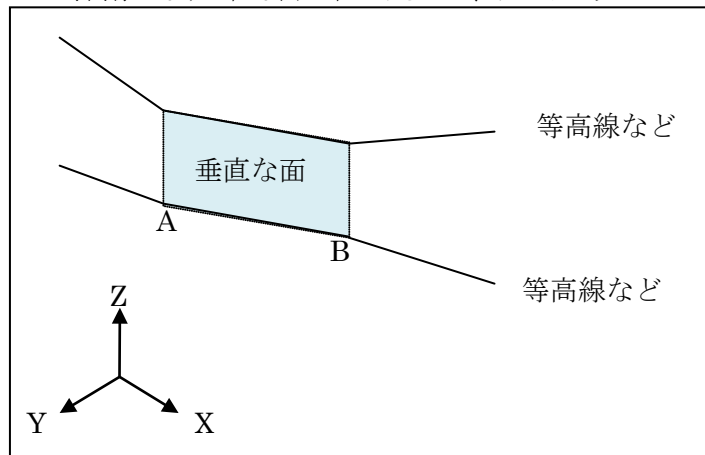
垂直な面はすべての 3 次元の面 (E1) と線 (E2) から構成します。垂直な面は、線分が XY 面で重なり、Z 値が異なることが条件です。XY 面で少しだけずれていたり、Z 値が同じ場合は垂直な面が構成できません。

2. 線の重複チェック

[チェック]-[重複チェック]および[重複チェック(組み合わせ)]にオプション「垂直な面の中なら除外」を追加しました。垂直な法面などを通る等高線について、重複としてリストアップしていましたが、このオプションで除外できます。



[垂直な面の中なら除外] 垂直な法面を通る等高線のように、XY 座標では重なり Z 値が異なる垂直な面にを想定し、線分がその面内にある場合、リストアップしません。下図で、線分 AB は上側の線分と重なっていますが、線分 AB は等高線がなす垂直な面の中にあるので、リストアップしません。

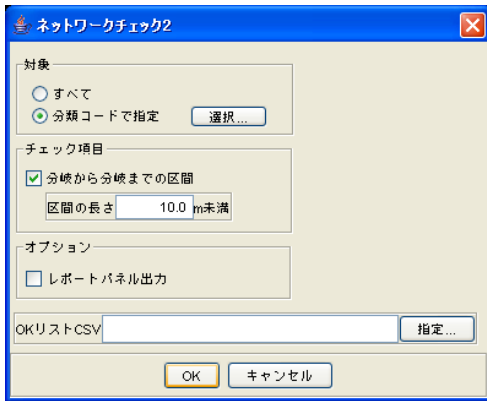


垂直な面はすべての3次元の面(E1)と線(E2)から構成します。垂直な面は、線分がXY面で重なり、Z値が異なることが条件です。XY面で少しだけずれていたり、Z値が同じ場合は垂直な面が構成できません。

3. ネットワークチェック 2

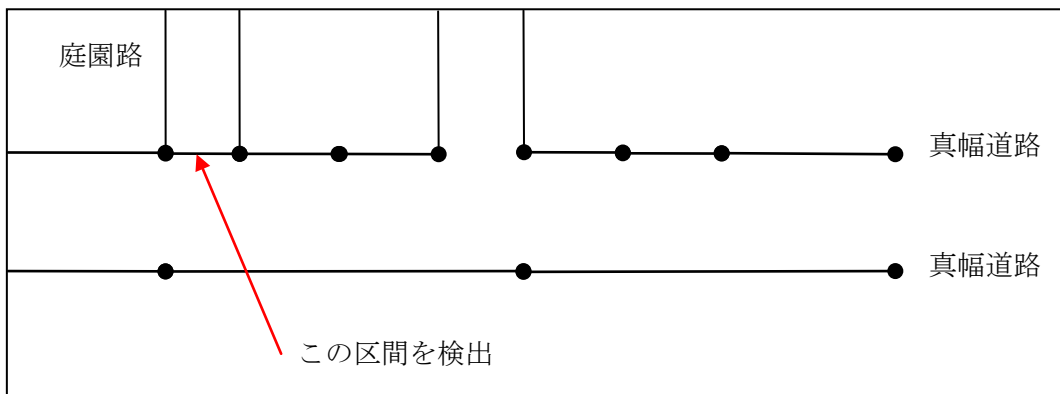
新メニュー[チェック]-[ネットワークチェック 2]を追加しました。

[ネットワークチェック]は分類コード別のネットワークを対象としていますが、この[ネットワークチェック 2]では、指定された分類コードの要素全体でネットワークを構成し、チェックします。



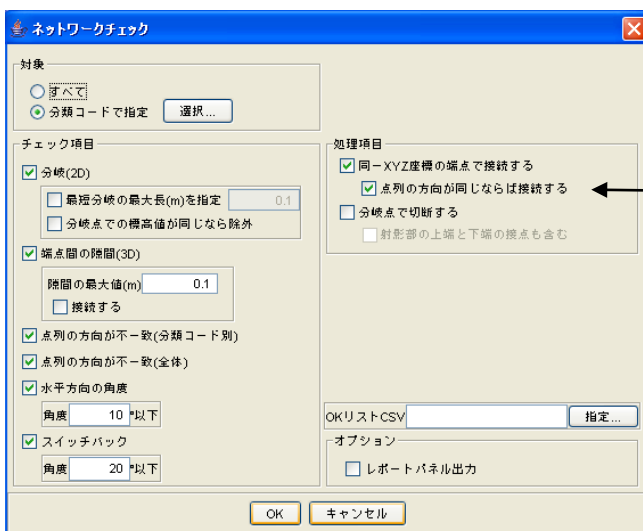
分岐から分岐までの区間

ネットワークの経路について、分岐点から分岐点までの区間について、指定された長さより短い区間をリストアップします。真幅道路と庭園路の組み合わせで、庭園路に入る部分が閉じているケースなどを検出します。



4. ネットワークチェック

[チェック]-[ネットワークチェック]にオプション[点列の方向が同じならば接続する]を追加しました。



以下、説明書からの抜粋です。

【同一 XYZ 座標の端点で接続する】

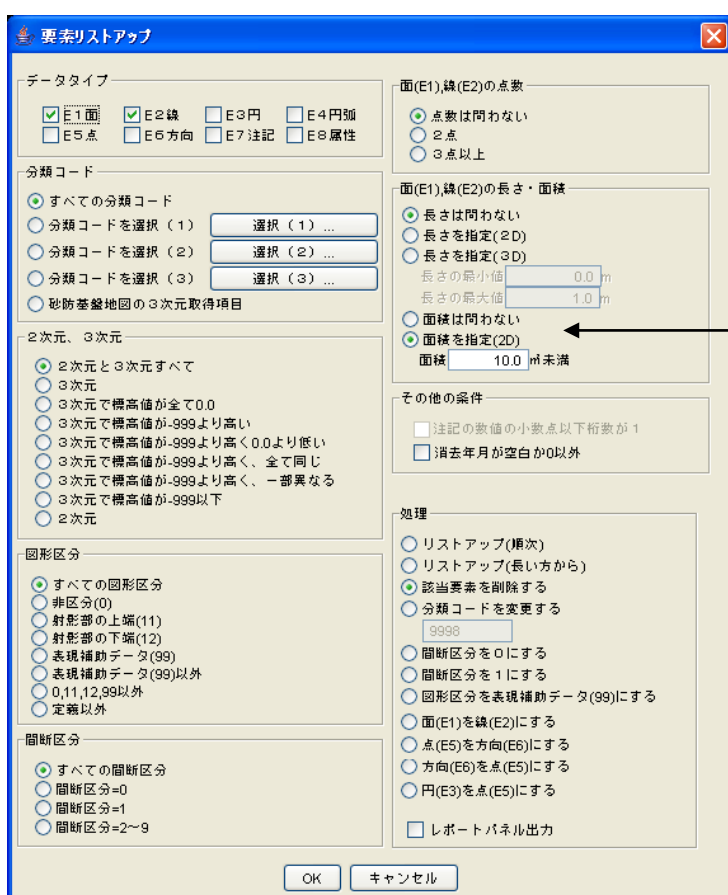
同じ分類コード、同じ図形区分、同じ間断区分の線要素で、端点の XYZ 座標が同じ場合、一本の線要素にまとめます。同一ファイル内の線要素を接続します。図形区分は 0(非区分),11(射影部の上端),12(射影部の下端)が対象です。但し、分岐になっている箇所および図郭線上の端点では接続しません。

【点列の方向が同じならば接続する】

ON の場合、点列の方向が同じ場合のみ接続します。つまり、終点と始点で接している場合です。OFF の場合、方向に関係なく接続します。

5. 要素リストアップ

[ツール]-[要素リストアップ]に、線と面の面積による条件を追加しました。



以下、説明書からの抜粋です。

【面(E1),線(E2)の長さ・面積】

面(E1)と面(E2)について、条件を追加します。長さや面積の範囲を指定しても、円(E3)や円弧(E4),点(E5)などはこの条件による制限には関係しません。

【面積を指定(2D)】

始点と終点と同じ座標の線(E2)と面(E1)が制限の対象になります。指定した面積より小さい面積の線(E2)と面(E1)をリストアップします。線(E2)と面(E1)のみリストアップしたい場合、[データタイプ]では、他のデータタイプは OFF にしておいてください。